



YMCA

月刊 The YMCA 付録

編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地
大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297
URL: http://www.osakaymca.or.jp/
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

大阪青年

2008 Jan. 1
Feb. 2
No. 602

2007年度年間聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。
どんなことにも感謝しなさい」

(テサロニケの信徒の手紙1 5章16~18節)

大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をなくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

新年メッセージ

「イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び
希望を持って共に生きる社会の実現をめざします」

(大阪YMCAの使命)

六甲山から見る日の出

新年おめでとうございます。

2007年、創立125周年を迎えた大阪YMCAは「希望を持って共に生きる社会」をテーマにした記念事業を各地域YMCAの会員が中心となって各地域で展開しました。

そこでは複雑さを増す社会の中での若者の課題、こころの問題、キリスト教基盤の確認、グローバル化の課題等々を取り上げた17の事業が行われました。複雑さが増すというのは多数が少数の課題を簡単に切り捨てることが出来なくなってきた事であり、問題を共に担って歩む時代の直中にいるということでもあります。

2008年、大阪YMCAはこれらの時代の中で新たな展開を計る「中期3ヵ年計画(2008~2010年)」を準備しています。そこには、経済優先とも言える社会の中で人間性を取り戻す様々なチャレンジ—青少年への身体活動と自然学校の展開、孤立する家族への子育て支援、発達障がい児へのプログラムや通信制高校の一層の展開等異なった学び方の提示、多文化共生社会への取り組みなど、複雑な社会課題への「切り捨てる簡単性—孤立」に抗する「謙虚と癒し—繋がり」に基づいた事業チャレンジが表されています。また、現下の公益法人制度改革に対応するための運営組織の整備などと共に、「YMCAの願い」—「私たちの公益性」を明確に表し、全ての活動の現場でそれらが浸透するように努めています。

YMCAの願い

YMCAでは活動をとおして次のことを学びます。

- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心とからだを育むこと」

YMCAではこれらを実現するために、「思いやり」、「誠実さ」「責任感」「尊敬心」をすべての場面で大切にしています。

社会が大きく揺れ動き新しい時代を求めるとき、YMCAはその使命を明らかにし、キリスト教の価値観に根ざす「新しい人間」と「新しい社会を見出す人々」を育て社会に送り出してきました。2008年、私たちは「イエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、希望を持って共に生きる社会の実現をめざす」使命とその具体的なはたらきを強めてまいります。

大阪YMCAに集いこの運動の豊かさを感じておられる皆様と共に、人間性あふれる「新しい社会」への様々なチャレンジを展開し、YMCAの使命を一つひとつ実現していく年となるよう共に歩んでくださいますことをお願い申し上げます。

大阪YMCA総主事

すえおか よしひろ
末岡 祥弘

地の塩

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリントの信徒への第二の手紙 五章一七節)

▼元日の朝、賀状の束を手にする「新年おめでとう」「明けましておめでとう」。あの人の人から新年の喜びが伝えられてくる。人は誰でも新しいスタートが大好きだ。再チャレンジの機会、新たな希望、新たな努力、目標、計画。新たな気持ちで大切にしたいもの。▼昔、ローマ人は一月を自分たちの神「ヤヌス」の名で呼んだ。「ヤヌス」は英語のジャニユアリーの語源である。前後に二つの顔を持った神で、後ろの眼は過ぎ去った過去を、前の眼は未来を見つめている▼新年を迎え、私たちがヤヌス神の二つの顔を借用したい。まずは過ぎ去った一年をしつかりと振り返り点検したい。満足のいく一年であったか、出来なかったことは何か、いろいろな思いや後悔、反省が浮かんでくる▼他方、新しい未来を見る眼はどうであろうか。情性に流されることなく、計画的に目標をたてて歩んでいきたい▼さて、「大阪YMCAの使命」は前段で「希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします」と謳っている。現代はグローバル化が一層進み、人と人との関係、社会と社会、国家と国家すべてが密接にからみ合い、依存しあつて存在している。個人の利益や目的のみを追求すると他者が犠牲となり苦しむことになる。私たちの使命に記された五つの具体的な目標に沿った計画を立てたいものだ▼新しい年が皆さんにとって意義深い一年となるように祈ってやまない。(虔)